



評価監視官 評価監視官付

### 主な経歴

令和7年4月 沖縄行政評価事務所採用  
 令和7年4月 九州管区行政評価局  
 令和8年4月 現職

### Q 職場の雰囲気は？

**A** 私は現在、評価監視官室で、行政運営の改善を目的とした調査業務に携わっています。

採用前は、実際にどのような仕事をするのか具体的に想像できず、不安もありました。現在は、上司や先輩職員の助言を受けながら一つ一つ業務に取り組み、少しずつ成長できている実感があります。

また、若手であっても主体的に業務に関わることができ、関心のある行政の課題について、幹部職員を交えて、意見交換できる機会もあり、風通しの良い職場だと感じています。

### Message

私は当初、漠然と公務員として社会に貢献したいと考えており、志望先がなかなか定まりませんでした。

そのような中で沖縄行政評価事務所を知り、調査業務や相談業務について、特定の分野に限らず幅広く行政に関わることができる点が魅力だと感じ、志望しました。自身の関心や意見をいかしながら働くことができる職場ですので、皆さんが新しい風を吹かせてくれることを心待ちにしております。

### Q これまでの業務内容は？

**A** 九州管区での勤務後、本省行政評価局行政相談管理官室において、行政相談業務や行政相談を端緒として、高い識見を有する公平な第三者による国民的立場からの意見を聴取し、その的確かつ効果的な改善を推進するため開催している行政改善推進会議のロジなどを担当しました。

また、行政管理局管理官室では、国土交通省所管法人を主に担当し、政府唯一の第三者機関である独立行政法人評価制度委員会の事務局として、主務大臣が策定する中（長）期目標や業績評価の点検に携わりました。

### Message

他府省庁が所管する業務に携わるため難しさもありますが、多岐にわたる業務や様々な分野の方々との関わりを通じて、視野が広がり、知識を深めることができます。

また、転勤に際してなじみのない土地での生活や仕事に当初は不安もありましたが、転勤により多様な地域や職場で経験を重ねることで、各地域の特色や文化への理解が深まりました。加えて、新たな環境での業務を通じて適応力などが磨かれ、自身の成長につながる点も魅力だと思います。



総務課 総務係長

### 主な経歴

令和3年4月 沖縄行政評価事務所採用  
 令和3年4月 九州管区行政評価局  
 令和5年4月 総務省行政評価局行政相談管理官  
 令和6年4月 同 行政管理局管理官  
 （独立行政法人評価担当）  
 令和8年4月 現職



## Q ワークライフバランスは？

A 当事務所では、職員が仕事と家庭を両立できる環境づくりに力を入れており、男性職員の育児休業取得やフレックスタイム制度などを活用した柔軟な働き方について、積極的に後押ししています。

私自身も、5歳と1歳の2人のこどもの誕生時にはそれぞれ約1か月間の育児休業を取得し、現在はフレックスタイム制度を活用して、朝は子どもたちを園へ送り届けてから出勤するなど、家庭の時間も大切にしながら働いています。

## 行政相談課 業務係長

### 主な経歴

平成29年4月 沖縄行政評価事務所採用  
 平成29年10月 四国行政評価支局  
 平成31年4月 総務省行政評価局総務課  
 令和2年4月 同 評価監視官  
 令和4年4月 沖縄行政評価事務所行政相談課  
 令和6年4月 同 総務課  
 令和8年4月 現職  
 <育児休業>  
 令和2年7月～8月、令和6年10月

## Q 現在の業務内容は？

A 現在は、主に行政相談に係るイベント等の企画・運営や行政相談委員の活動支援業務を担当し、より多くの人に行政相談を気軽に利用してもらえるように取り組んでいます。

特に、「一日合同行政相談所」の開設に力を入れており、関係機関との調整など事前準備は大忙しですが、それでも、会場で利用者から、感謝の言葉や「来年も開催してほしい」との声をいただいたときには、大きな達成感を得られ、モチベーションが上がります。

## Q 現在の業務は？

A 私は、もともと自治体職員として生活保護や企画政策といった部署を経験しましたが、限られた地域で働くことよりも、国民のために働くというフィールドの広さに魅力を感じました。

現在は、主に行政相談業務に従事していますが、これまでの業務経験を生かしながらも、常に公平・中立の立場を意識し、事実関係を丁寧に整理することを心掛けています。国民の声を単なる「要望」で終わらせず、制度改善につなげていくことにこの仕事の意義があります。



沖縄市一日合同行政相談所の様子

## Message

沖縄行政評価事務所には、年齢や職位に関係なく、自由に意見を交わせる環境があります。以前の職場では、所属の枠を超えて業務に携わる機会は限られており、希望する分野の業務に従事することは容易ではありませんでした。

一方、当事務所では、所属の枠を超えたチームで仕事をすることもあり、すぐにでも自らの考えや提案を「社会を良くする」ためにいかすことができます。

社会の改善に主体的に貢献したいという意欲や、高い探究心を持つ方にとって、非常に適した職場環境だと思います。

## 主任室 行政相談官

### 主な経歴

令和7年10月 選考採用  
 令和7年10月 現職



那覇市企画調整課DX推進室（派遣）

主な経歴

- 平成26年4月 沖縄行政評価事務所採用
- 平成27年4月 同 評価監視官
- 平成28年4月 総務省行政管理局  
政府共通システム基盤センター
- 平成29年4月 同 行政評価局企画課
- 平成31年4月 同 行政評価局行政相談企画課
- 令和3年4月 沖縄行政評価事務所総務課
- 令和6年4月 同 主任行政相談官
- 令和7年4月 現職

Q 現在の業務内容は？

A 派遣先的那覇市では、DX推進人材の育成やDXに関する周知・広報、市役所内の各課が実施するDXの取組に対する支援など、DX推進に向けた取組を行っています。

今やDX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉が当たり前に使われるようになりましたが、那覇市での業務を通じて、「仕事をより良くしていくためには、DXの取組を続けていくことが必要」、「自身が携わった総務省内の仕事が俯瞰できた」など、派遣されたからこそ分かる、学びや気づきがあります。

Message

仕事をする意味を考えたことはありますか？

与えられた仕事を行うことはもちろんですが、与えられた意味を考え、誰のためにやるのか、何のためにやるのか、自ら考え、時にはチームで考え、仕事をデザインしていくことが必要とされる世の中になっていると思います。

総務省という国の役所で、皆さんがそのデザイナーになってくれること、一緒にチームとして、仲間として働いてくれることを心から楽しみにしています。

入省後のキャリアパスの例

1年目

2～3年目

4～6年目

7年目以降

九州管区

沖縄事務所

総務本省

沖縄事務所

実務研修として約4か月毎に各業務を経験

行政運営改善調査又は行政相談業務に配属

主に、行政評価局内にある部署に配属

中堅職員として業務の中心となり活躍

それ以降は、2～3年のサイクルで異動（部署異動又は県外異動）を繰り返しつつ、キャリアを積んでいきます。

職員本人の希望や資質等によっては、本省や他管区局等での勤務もあります。本省勤務の場合は、大臣官房や行政管理局等といった他部局での勤務、内閣人事局やデジタル庁等といった他省庁に出向する可能性もあります。